



日吉神社

千葉県館山市神余九三二

例祭

七月十九日・二十日。両日にわたり、雨乞い神事であるかつこ舞が奉納されます。そして十九日には、神輿渡御が行われます。かなり重い神輿で、屋根には二つの二葉葵の神紋がつけられています。神輿渡御は、若者はじめ地域の人達によって勇壮に、また激しく担ぎながら、二本棒独特の大きな揺れを楽しみむように、地域内を練り歩きます。黒の漆と金箔の飾り物の中から、美しく彩色された彫刻たちが、生き生きとした表情をみせ、他にはない独特の雅やかさを醸しています。



広い境内と大きな拝殿・本殿を持つ日吉神社

由緒

旧豊房村の村社。延暦二十三年(八〇四)、神余に居城を構えた金丸氏により農工商の守護を祈念して創建されました(神余百年史より)。境内の手水鉢は天保九年(一八三八)のもので、江戸時代の名主・金丸氏や村の旧家と貝家などにより寄進されたものです。石工は白浜滝口の亀吉とあります。

そのほか寛保二年(一七二四)の石灯笼や願主の名前が刻まれた力石などがあります。社地は縦五十軒横十五間の広さで約七百坪、本社桁行二軒奥行三間、拝殿は間口四軒奥行二間半という、とても大きな神社です。



日吉神社神輿

- 扉……………四方扉
- 鳥居……………明神鳥居
- 台輪……………普及型
- 台輪寸法……三尺八寸
- 制作者……………林 庄之助
- 制作年代……昭和26年7月
- 彫刻……………三代後藤義光
- その他……………以前の神輿は白木、平成6年に塗り替えられた

祭神

大山咋神(オオヤマクイノカミ) 別名を山末之大王神(やますえのおおぬしのかみ)といい、日吉大社の神、比叡山に鎮まる神として信仰されています。開拓による国土建設や酒造にも長じている神様。五穀豊穡や樹木の成長、暮らしを豊かにする神として拝まれています。

地域の自慢

神余地区は、館山と白浜を結ぶ県道沿いの、市内最大の広さを持つ地区です。周りを山に囲まれた盆地の中にあり、中央を巴川が流れ、その両側には田畑が階段のように作られています。

また、安房神社ゆかりの地域でもあります。平田、加藤、大倉、上、山下、畑ヶ中、上の台、久所の八つの地区から

なっています。初夏になるとゲンジボタルが飛び交い、自然の豊かさを見せてくれます。平安時代の終わり頃から土豪である神余氏が居城を構え活躍した地域でもあり、神余小学校の北東隣には神余城跡が残っています。



神余小学校にある初代義光の彫刻

神社は日吉神社、寺院は自性院、智恩寺、原の堂、大高尾の堂などがあります。智恩寺には、安房の名工・武志伊八郎信由による見事な欄間彫刻が飾られています。また、弘法大師にまつわる「塩井戸」(県有形民俗文化財)など、さまざまな歴史に支えられた郷でもあります。



漆塗と金箔飾りの中にある見事に彩色された神輿の彫刻

このパンフレットは、地域の方々からの聞き取りを中心に、さまざまな文献史料からの情報を加えて編集しています。内容等につきましてご指摘やご意見等ございましたら、ぜひご連絡いただき、ご教示賜りたくお願いいたします。



豊かな自然の神余地区